

*** 今日の健康（9月）***

< 季節はずれのインフルエンザ 2026 >

季節外れのインフルエンザが発生し厚生労働省は2026年8月28日、今シーズンのインフルエンザが全国で「流行入り」と発表しました。8月下旬での全国的な流行入りは、夏場も流行が継続していた特殊な年を除き、1999年の現行法制下では過去2番目の早さとなっています。

< 直近の発生状況 >

患者数：第34週（8月17日～23日）の1医療機関あたりの平均患者報告数は1.11人となり、流行開始の目安となる「1.0人」を超えました。

地域的な広がり：東京都など首都圏をはじめとする一部地域で報告数が例年を大きく上回るペースで増加しており、夏休み期間中でありながら学校や職場、家庭内での感染が見られます。



背景：本来インフルエンザは冬場に猛威を振りますが、近年は季節を問わない異例の流行や、長期化・早期化の傾向がみられるようになっていきます。

< 注意点・対策 >

熱中症との見分けにくさ：発熱、倦怠感、関節痛などは夏風邪や熱中症の症状とも非常に似ているため、判断が遅れがちになります。発熱や喉の痛み、咳などがみられる場合は、シーズン初めであってもインフルエンザの可能性を視野に入れる必要があります。

基本的な感染対策：換気や手洗い、必要に応じたマスクの着用など、季節を問わない基本的な感染防止策が推奨されます。

< 現在検出されているウイルス株 >

夏場から異例の早期流行を引き起こしている現在のウイルスとしては、例年と同様にA型（H1N1亜型およびH3N2亜型）が中心となって検出されています。

現在（2026年8月末）流行しているインフルエンザ、および今シーズン（2026-2027シーズン）に向けて厚生労働省が選定した**ワクチンの製造株**の主な内訳は以下の通りです。国内の一般的な不活化ワクチン（皮下注射）には、世界保健機関（WHO）の推奨などを踏まえ、以下の3株が採用されています。

- **A型株（2種類）**
- A/スイス/6849/2025（IVR-278）（H1N1pdm09亜型）
- A/ミシガン/105/2025（SAN-049A）（H3N2亜型・香港型）
- **B型株（1種類）**
- B/東京/EIS13-175/2025（ビクトリア系統）

※なお、かつて含まれていたB型の「山形系統」は、世界的長期間にわたり検出されておらず、昨シーズンに引き続き製造株から外れています（3価ワクチンでの構成）。

今シーズンのインフルエンザワクチン接種は10月から予定しています。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861
天文台通り もみじ山公園バス停裏